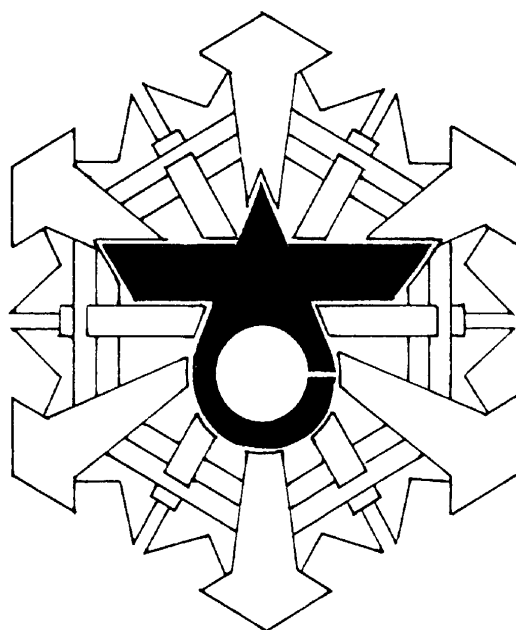


令和元年（2019 年）版

消 防 年 報

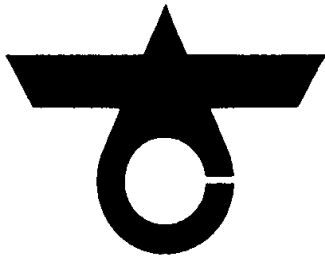


大阪狭山市消防本部

令和2年（2020 年）刊行

市

章



全体で、「さやま」の「さ」をあらわし、上の山形を「山」としています。
下の円は、大阪狭山市民が「みんな仲良く」という意味です。そして、全
体の感じとして大鵬の羽ばたくように、未来に向かって大きく進んでい
く大阪狭山市の姿を表しています。

〔1977 年(昭和 52 年) 5 月 10 日制定〕

〔1987 年(昭和 62 年)10 月 1 日改定〕

市

民

憲

章

わたくしたちの狭山は、金剛、葛城をあおぎ、水豊かな狭山池の美しい自然と古い歴史に恵まれたのびゆくまちです。

わたくしたちは、このまちに住むことに誇りをもって、よりよいまちを築くために、みんなの願いをこめて、この憲章を定めます。

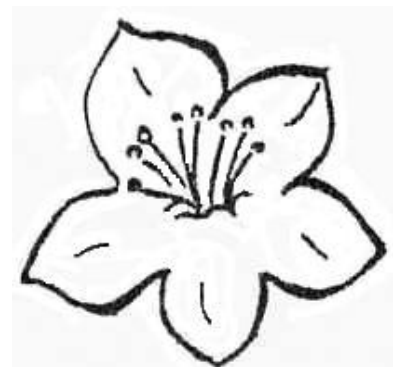
わたくしたちは、

1. 思いやりの芽を育て、明るく楽しいまちをつくりましょう。
1. 自然を愛し、美しく住みよいまちをつくりましょう。
1. 健康で働くよろこびをもち、心豊かなまちをつくりましょう。
1. 教養を高め、知性に満ちた文化のまちをつくりましょう。
1. 幸せを願い、夢と希望のあるまちをつくりましょう。

(昭和 62 年 10 月 1 日制定)



市の木 さくら



市の花 つつじ

は じ め に

この年報は、大阪狭山市の消防現勢および消防業務の統計資料を収録するとともに将来の参考となるよう編集したものです。

多くの皆さんにご覧いただき、幅広くご活用いただければ幸いと考えています。

今後ともさらに市民の期待と信頼にこたえられるよう努力し、防災体制の充実強化をはじめ、災害のない明るく住みよいまちづくりを考え、取り組めますので、より一層のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、この年報は、火災・救急等の統計資料については、暦年によって収録し、その他の資料については、会計年度並びに令和2年4月1日現在を基礎としております。

令和2年9月

大 阪 狭 山 市 消 防 本 部

市 勢

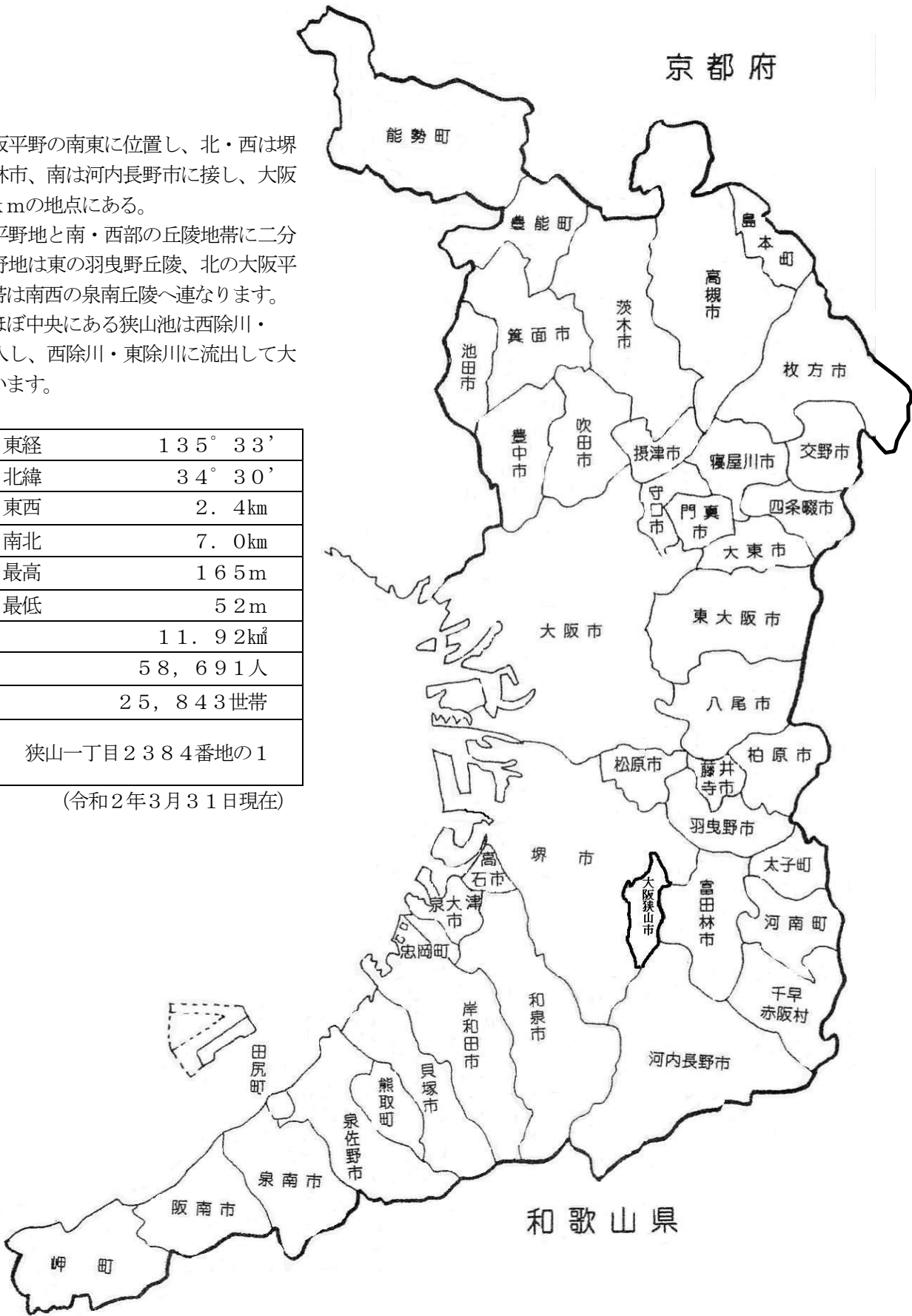
本市は、大阪平野の南東に位置し、北・西は堺市、東は富田林市、南は河内長野市に接し、大阪市内から約20kmの地点にある。

北・東部の平野地と南・西部の丘陵地帯に二分され、この平野地は東の羽曳野丘陵、北の大阪平野へ、丘陵地帯は南西の泉南丘陵へ連なります。

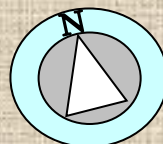
また、市のほぼ中央にある狭山池は西除川・三津屋川が流入し、西除川・東除川に流出して大和川に注いでいます。

位 置	東経	135° 33′
	北緯	34° 30′
広 ぼ う	東西	2.4km
	南北	7.0km
海 抜	最高	165m
	最低	52m
面 積		11.92km ²
人 口		58,691人
世 帯 数		25,843世帯
本 部 ・ 署 所 在 地	狭山一丁目2384番地の1	

(令和2年3月31日現在)



消防機関配置図



堺市

東野分団

山本分団

池尻分団

東池尻分団

山本分団

岩室分団

狭山分団

半田分団

今熊分団

ニュータウン出張所
高規 P H P

茶黄木分団

大野分団

大阪狭山市消防本部・消防署
大阪狭山市消防団
(本部・女性分団)

T R P 高規 指 広 高規 積

大阪狭山市役所

金剛駅

富田林市

至高野山

河内長野市

- 市 役 所
- ⊙ 消 防 本 部 (署)
- ⊙ 消 防 出 張 所
- △ 消 防 団 本 部
- △ 消 防 団 分 団
- P ポ ン プ 車
- T タ ン ク 車
- R 救 助 工 作 車
- H ハ シ ゴ 車
- 高 規 格 救 急 車
- 指 指 令 車
- 広 広 報 車
- 積 積 載 車
- 小 小 型 動 力 ポ ンプ 付 積 載 車

消 防 の 沿 革

昭和26年	4月	町制施行して狭山町となり、消防団を再編成、1団10分団をもって狭山町消防団が誕生。 初代消防団長は溝端正勝氏が就任
昭和29年	7月	ポンプ自動車（BS－Ⅰ型）配置
昭和34年	12月	消防団長溝端正勝氏が勇退、後任に上田楠太郎氏が就任
昭和36年	6月	小型動力ポンプ（B3級）西池尻分団に配置
昭和37年	10月	ポンプ自動車（BS－Ⅰ型）配置
昭和41年	7月	町職員による救急奉仕隊発足、救急車配置
	9月	ポンプ自動車（BS－Ⅱ型）配置 小型動力ポンプ（B2級）今熊分団に配置
昭和44年	12月	消防団員による機関員宿直制度実施
昭和45年	2月	消防相互応援協定締結 富田林市・河内長野市・松原市・柏原市・羽曳野市・藤井寺市・美原町・河南町・太子町・千早赤阪村
	8月	ポンプ自動車（BS－Ⅱ型）配置
	10月	常備消防団6人で運用 航空消防応援協定締結（大阪市）
	12月	ポンプ自動車（BS－Ⅰ型）配置
昭和46年	4月	消防団常備部発足、常備職員15人採用 常備消防職員21人 ポンプ自動車2台、救急車1台、水防車1台配置
	7月	消防職員寮完成（10室）
	10月	15m屈折はしご車配置
昭和47年	4月	消防本部・消防署発足、消防職員11人採用 総務・予防・警備の3係をもって業務を開始 上田消防長以下消防吏員32人、事務職員1人
	10月	水槽付ポンプ自動車（水Ⅱ型）配置
	11月	上田消防長退職・林部助役が消防長事務取扱となる
	12月	小林末好氏が消防団長に就任
昭和48年	4月	消防吏員3人採用、うち欠員1人、救急車（2B）更新
	5月	消防庁舎新築竣工 消防相互応援協定締結（堺市高石市消防組合消防本部）
	12月	林部助役が消防長事務取扱を退任し、笹川消防長就任
昭和49年	4月	消防吏員4人採用 狭山町危険物防火研究会結成
	5月	救急車（2B）配置 （大阪府モーターボート競走会寄贈）
	7月	消防吏員1人退職
	8月	救助技術訓練施設（15mはしご固定）設置
昭和50年	4月	消防吏員1人欠員採用
昭和51年	9月	山本分団ポンプ自動車（BD－Ⅰ型）更新
昭和52年	3月	消防吏員1人退職
	4月	消防吏員1人欠員採用・消防職員寮廃止
昭和53年	4月	消防吏員1人採用
	5月	狭山町危険物防火研究会を狭山町防火協力会に改称
	10月	消防本部に課制を実施（総務課・予防課・警備課） 事務職員1人増員

	12月	査察車配置
昭和54年	3月	今熊地区に防火水槽（40㎡）1基設置、 笹川消防長勇退
	4月	寺本消防長就任、消防吏員1人採用
	11月	41m級はしご付消防自動車配置
	12月	東池尻地区に防火水槽（40㎡）1基配置
昭和55年	3月	消防吏員1人欠員採用 消防吏員1人町長部局へ出向
	4月	消防吏員1人欠員採用、救急車（2B）更新
	10月	消防吏員1人退職
	11月	ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）更新
昭和56年	3月	小型動力ポンプ付積載車を消防署、大野分団に配置
	4月	消防吏員1人採用 救急車（2B）配置 （大阪府モーターボート競走会寄贈） 消防吏員1人退職・茱萸木地区に防火水槽（40㎡）1基設置
	10月	消防吏員1人欠員採用
	12月	広報車配置・小型動力ポンプ付積載車を茱萸木、東野分団に配置
昭和57年	1月	組立て水槽（5㎡）、0.5馬力コンプレッサー、レサシベビー （金剛ライオンズクラブ寄贈）
	3月	大野地区に防火水槽（40㎡）1基設置
	12月	小型動力ポンプ付積載車を西池尻、東池尻、半田分団に配置
昭和58年	11月	東野地区に防火水槽（40㎡）1基設置
	12月	水槽付ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新
昭和59年	2月	小型動力ポンプ付積載車を岩室分団に配置
	3月	救急車（2B）配置 （大阪府共済農業協同組合連合会寄贈）
	5月	複写機（狭山町防火協力会寄贈）
	10月	ビデオセッター式、組立て水槽（5㎡） （金剛ライオンズクラブ寄贈）
	11月	第40回全国消防長会予防委員会開催
	12月	岩室地区に防火水槽（40㎡）1基設置
昭和60年	2月	今熊分団ポンプ自動車（BD－Ⅰ型）更新
	12月	指令車配置
昭和61年	1月	山伏地区に防火水槽（40㎡）1基設置
	2月	小型動力ポンプ付積載車を狭山分団に配置
昭和62年	1月	救助資機材一式配置
	3月	山本地区に防火水槽（40㎡）1基設置
	4月	消防吏員2人採用
	10月	市制施行に伴い、大阪狭山市消防本部・同市消防署・同市消防団となる 「狭山町防火協力会」を「大阪狭山市防火協会」に改称
	12月	消防吏員1人退職
昭和63年	2月	ポンプ自動車（CD－Ⅰ型）更新
	3月	救急車（2B）更新 寺本消防長退職
	4月	浅香消防長（大阪市消防局から出向）就任、 市長部局から事務職員1人出向

		消防吏員4人採用うち欠員1人
平成 元年	1 1 月	1 5 m級はしご付ポンプ自動車更新
	4 月	消防吏員3人採用、事務職員市へ出向
	6 月	消防吏員1人退職
	1 2 月	救助資機材一式配置・広報車更新
平成 2年	2 月	消防無線府波基地局配置
	4 月	消防吏員3人採用うち1人欠員採用
	5 月	大阪狭山市婦人防火クラブ結成
平成 3年	3 月	消防庁長官表彰旗受賞・救急車（2 B）更新
	4 月	消防吏員4人採用
	5 月	アクアリング救助隊編成
	8 月	消防出張所建設工事開始
	1 2 月	ポンプ自動車（CD－I 型・電動ホースカー付）増強
平成 4年	3 月	救急車（2 B）増強
	4 月	消防吏員4人採用
	7 月	ニュータウン出張所新築竣工
平成 5年	1 月	消防吏員1人採用
	3 月	消防庁舎一部改修（通言指令室）、消防緊急通言指令施設 I 型導入
	4 月	消防吏員4人採用・救急救命士1名誕生
		機構改革により救急救助課を新設
	1 0 月	救助工作車配置 （社団法人日本損害保険協会寄贈）
	1 1 月	指令車更新・消防吏員1人退職
平成 6年	4 月	消防吏員4人採用
	9 月	ポンプ自動車（CD－I 型）更新
	1 0 月	消防吏員1人退職
	1 2 月	小型動力ポンプ（B 3 級）東野分団更新
平成 7年	1 月	消防吏員1人採用 消防用無線を山本・今熊分団ポンプ車に搭載
	4 月	消防吏員1人採用
	8 月	東野・金剛・西山台地区に防火水槽（4 0 m ³ ）各1基設置
	1 2 月	高規格救急車導入・救急救命士4名運用開始
平成 8年	2 月	小型動力ポンプ（B 3 級）茱萸木分団更新
	4 月	消防吏員1人採用
	1 0 月	水槽付ポンプ自動車（水 I－A）更新 小型動力ポンプ積載車・茱萸木・大野分団更新
平成 9年	3 月	池尻北・大野台地区に耐震性貯水槽（6 0 m ³ ）各1基設置 浅香消防長退職
	4 月	松本消防長就任、消防吏員1人採用 大阪市より消防吏員1人出向 機構改革により消防本部3課（総務課、予防課、警備救急課） 消防署1課1所（警防課、出張所）体制を実施
	1 2 月	小型動力ポンプ積載車・東野分団更新
平成 1 0年	1 月	消防吏員1人退職
	2 月	救急車（2 B）（社団法人大阪府モーターボート競走会寄贈）
	4 月	消防団長小林末好氏が勇退、後任に山本利治氏が就任
	1 2 月	ポンプ自動車（CD－I 型）更新 小型動力ポンプ付積載車・西池尻分団更新

平成 1 1 年	3 月	松本消防長退職
	4 月	西辻消防長就任
	1 0 月	4 1 m級はしご付消防ポンプ自動車更新
	1 2 月	小型動力ポンプ付積載車・東池尻分団更新 「西池尻分団」を「池尻分団」に改称
平成 1 2 年	2 月	東池尻分団車庫増築
	3 月	池尻分団車庫を車庫兼防災倉庫として新築竣工
	4 月	消防吏員2人採用
	1 2 月	ポンプ自動車（BD－I 型）・今熊分団更新 小型動力ポンプ付積載車・半田分団更新
平成 1 3 年	3 月	大野分団車庫を車庫兼防災倉庫として新築竣工 高規格救急車配置（安田生命保険相互会社寄贈）
平成 1 4 年	3 月	小型動力ポンプ付積載車・岩室分団更新 西辻消防長退職、消防吏員1人退職
	4 月	堀端消防長就任 消防吏員4人採用
	1 2 月	高規格救急車更新、ポンプ自動車（CD－I 型）更新
平成 1 5 年	2 月	広報車更新
平成 1 6 年	1 月	小型動力ポンプ付積載車・狭山分団更新
平成 1 7 年	3 月	消防吏員3人退職
	4 月	消防吏員1人採用 機構改革によりグループ制を導入 （総務G・予防G・救急G・警防第1G・警防第2G）
	7 月	消防吏員1人退職
	1 0 月	消防吏員2人退職
	1 2 月	指令車更新
平成 1 8 年	3 月	堀端消防長退職
	4 月	中井消防長就任、消防吏員5人採用 市部局から事務職員1人出向
	9 月	消防団 第5 0 回記念大阪府大会（ポンプ車の部）優勝
	1 0 月	消防団 第2 0 回全国消防操法大会出場 消防庁舎耐震補強工事開始
平成 1 9 年	3 月	消防吏員2人退職 消防庁舎耐震補強工事完成
	1 2 月	NOXPM法により、ポンプ車1台廃車
平成 2 0 年	1 月	「婦人防火クラブ」を「女性防火クラブ」に改称
	3 月	高機能消防緊急情報システム（I 型）導入 消防吏員1人退職
	4 月	消防吏員3人採用
	1 1 月	1 5 m級はしご付消防ポンプ自動車更新
	1 2 月	消防吏員1人退職
平成 2 1 年	3 月	積載車更新 消防吏員1人退職
	4 月	消防団長山本利治氏が勇退、後任に山中義二氏が就任 消防吏員2人採用 市部局から事務職員1人出向
	8 月	救助工作車（II 型）更新
平成 2 2 年	3 月	高規格救急車更新 消防吏員2人退職
	4 月	消防吏員2人採用・消防吏員1人退職

	9月	中井消防長退職
	10月	北岸消防長就任
	11月	ポンプ自動車（CD—I型）・山本分団更新
平成23年	3月	消防吏員2人退職
	4月	消防吏員4人採用
	6月	消防吏員1人退職
平成24年	3月	消防吏員2人退職
	4月	消防吏員3人採用
		市部局から事務職員1人出向
		機構改革により通信指令室を増設
	6月	ポンプ自動車（Miracle CAFS）1台更新
	10月	消防吏員3人採用
	12月	高規格救急車更新
平成25年	3月	消防吏員4人退職
	4月	堺市消防局から1人出向
		大阪狭山市役所 危機管理グループへ1人出向
		消防吏員2人採用
	8月	消防団に女性分団発足 分団員8人入団
平成26年	2月	消防救急デジタル無線 設置
	3月	北岸消防長退職
		消防吏員3人退職
	4月	北口消防長就任、消防吏員2人採用
		大阪狭山市役所（危機管理グループ）へ出向中の職員が
		大阪府 危機管理室へ出向
		通信指令室を警防グループ（本部）に改称
		副団長2人体制から3人体制となる
	9月	消防吏員1人退職
	11月	ポンプ自動車（Miracle CAFS）1台更新
平成27年	3月	小型動力ポンプ・東野分団更新
		積載車・茱萸木分団更新
		積載車・大野分団更新
		消防吏員2人退職
	4月	消防団長山中義二氏が勇退、後任に笹岡満男氏が就任
		消防吏員4人採用
平成28年	3月	大阪府 危機管理室へ出向中の職員が帰任
		北口消防長退任（堺市消防局へ帰任）
		消防吏員2人退職
	4月	中原消防長就任（堺市消防局から出向）
	10月	消防吏員1人採用
平成29年	2月	ポンプ自動車（Miracle CAFS）1台増強
		積載車・東野分団更新
	4月	消防吏員2人採用
	12月	積載車・東池尻分団更新
		高規格救急車更新
平成30年	1月	積載車・池尻分団更新
	3月	消防吏員1人退職
	4月	消防吏員3人採用
	12月	積載車・半田分団更新
平成31年	1月	広報車更新

	2月	消防吏員1人退職
	3月	中原消防長退任（堺市消防局へ帰任）
		総務省消防庁から「救助資機材搭載型消防ポンプ車」が無償貸与、今熊分団に配備
		はしご付消防自動車の運用委託に係る消防応援協定を堺市と締結
平成31年	4月	白水消防長就任（堺市消防局から出向）
		消防団長笹岡満男氏が勇退、後任に尾崎豊春氏が就任
		堺市消防局総務課へ1人出向
令和 元年	9月	41m級はしご付消防ポンプ自動車 廃車
	10月	堺市とはしご付消防自動車の消防応援協定を開始
令和 2年	3月	積載車・岩室分団更新
		消防吏員1人退職

消防庁舎の概要

《大阪狭山市消防本部・消防署》

○建 築 概 要

所 在 地 狭山一丁目2384番地の1

開設年月日 昭和48年5月10日

敷地面積 6,029.13㎡
(市役所同一敷地内)

構 造 鉄筋コンクリート造
地上4階

塔 屋 1階

建築面積 350.29㎡

延床面積 1016.24㎡

建物耐震補強工事 平成19年3月実施済み



庁 舎 全 景

《大阪狭山市消防署ニュータウン出張所》

○建 築 概 要

所 在 地 大野台二丁目1番3号

開設年月日 平成4年7月18日

敷地面積 1,053.75㎡

建築構造 庁舎棟 鉄筋コンクリート造3階建 (PH2階)

訓練塔 主 塔 鉄筋コンクリート造5階建

補助塔 鉄筋コンクリート造2階建

建築面積 527.81㎡

延床面積 庁舎棟 1,111.48㎡

訓練棟 主 塔 93.35㎡

補助塔 21.94㎡



庁 舎 全 景